

JENESYS2017 招へいプログラム第7陣の記録

対象国：ラオス，ミャンマー

テーマ：（技術）環境・防災技術交流

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2017」の一環として、ラオスより高校生、大学生14名、ミャンマーより大学生35名が2017年10月31日～11月7日の日程で来日し、「環境・防災技術交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、都内での講義で、地方の少子高齢化や国内経済の低迷など、日本の社会問題と地域に求められる役割、公共施設が行う防災の取り組みについて学びました。ラオス訪日団は、2016年の地震からの復興を進める熊本県を訪問しました。熊本県庁の防災センターでは、防災への取り組みを実際に肌で学ぶことができました。また、熊本大学、熊本市国際交流会館では、地元の方々との交流を通じて日本との絆を深め、熊本城視察、菊池市でのホームステイでは、日本文化を体験する機会を得ました。

ミャンマー訪日団は、東日本大震災から6年が経過する岩手県を訪問し、岩手県立大学では、植生を生かした防災システムである「グリーンインフラ」という概念を学び、ミャンマーへの導入について真剣に考える姿が見られました。釜石市では、地元高校生やホストファミリーから、震災当時の状況や地域の取り組みを学ぶだけでなく、ミャンマーの舞踊を披露するなど相互に文化交流を楽しむことができました。

このようにプログラムを通して日本についての理解を深め、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて对外発信を行いました。帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加国・人数】

ラオス 15名，ミャンマー 35名

【訪問地】

東京都（全員），熊本県（ラオス15名），岩手県（ミャンマー35名）

2. 日程

ラオス

- | | |
|-----------|--|
| 10月31日(火) | 来日
【オリエンテーション】 |
| 11月1日(水) | 【日本理解講義／基調講演】
【防災関連施設視察】そなエリア東京（東京臨海広域防災公園）
都内から熊本県へ移動 |
| 11月2日(木) | 【地方自治体訪問】熊本県庁防災センター
【学校交流】熊本大学 |

- 11月3日(金) 【日本文化体験】茶道
 【歴史的建造物等視察】熊本城
 【関係者との意見交換会】熊本市国際交流会館 震災学習
 【ホームステイ対面式】菊池市
 【ホームステイ】
- 11月4日(土) 【ホームステイ】
 【日本文化体験】剣道, 泥染め, 和菓子作り
- 11月5日(日) 【地域の人々との交流会】
 【歴史的建造物等視察】蓮華院誕生寺奥之院【日本文化体験】 大茶盛
 【ワークショップ】
- 11月6日(月) 地方から都内へ移動
 【報告会】
- 11月7日(火) 離日
- ミャンマー**
- 10月31日(火) 来日
 【オリエンテーション】
- 11月1日(水) 【日本理解講義／基調講演】
 【最先端技術視察】池袋防災館
- 11月2日(木) 都内から岩手県へ移動
 【学校交流】岩手県立大学
- 11月3日(金) 【地域概要講義】釜石市
 【防災関連施設視察】鵜住居復興現場視察
 【地域住民との交流会】高校生と震災体験や学生による支援活動について対話
 【防災関連施設視察】「いのちの道」三陸ひとつなぎ自然学校
 【ホームステイ対面式】
- 11月4日(土) 【ホームステイ】
 【日本文化体験】丹内神楽
- 11月5日(日) 【地域の人々との交流会】
 【ワークショップ】
- 11月6日(月) 地方から都内へ移動
 【報告会】
- 11月7日(火) 離日

3. プログラム記録写真

ラオス



11/1 【防災関連施設視察】そなエリア東京



11/2 【地方自治体訪問】熊本県庁防災センター



11/2 【学校交流】熊本大学



11/3 【歴史的建造物等視察】熊本城



11/4 【日本文化体験】和菓子作り



11/5 【地域の人々との交流会】



11/5【歴史的建造物等視察】蓮華院誕生寺
奥之院【日本文化体験】 大茶盛



11/6【報告会】

ミャンマー



11/1【日本理解講義／基調講演】



11/2【学校交流】岩手県立大学



11/3【地域概要講義】釜石市



11/3【防災関連施設視察】「いのちの道」三
陸ひとつなぎ自然学校



11/4【日本文化体験】丹内神楽



11/5【地域の人々との交流会】

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ ラオス 学生

熊本大学では、留学生と日本人学生の学生生活や日本の教育システムを知ることができて良かったです。また、私たちもラオスの文化や生活について伝えることができ嬉しかったです。ソナエリア東京と熊本県庁防災センターでは、自然災害による被害について詳しい説明を聞くことが出来ました。日本人の災害が起こった時に自ら立ち上がり迅速かつ効率的に復旧・復興を行う行動力は素晴らしいと思いました。

ホストファミリーはとても優しく、常に私たちのことを気にかけてくれて、とても嬉しかったです。

◆ ラオス 学生

自分がまさか日本に来られるとは思っていませんでした。夢のような滞在でした。実際に日本に来て、プログラムに参加し様々な事を学ぶことができました。熊本県庁防災センターでは、災害が起こった際、市の職員がどのような対応をしたか、また、住民救助の方法について知ることができました。企業や地方公共団体の視察では、社員全員が自分の仕事に対して強い責任感を持ち、住民の収入を向上させるために様々な取り組みをしているということがわかりました。ラオスも日本を良き手本としてこの意識を持たなければいけないと感じました。ホームステイは予想以上に素晴らしく、お父さん、お母さんは実の子供のように接してくれ、色々な場所に連れて行ってくれました。

◆ ミャンマー 学生

池袋防災館で実体験に基づく予防対策についての講義を受け、自国でもいつでも起こりうる自然災害に対し訓練をすべきだと思いました。東日本大震災の記録フィルム見たときは、とても悲しい気持ちになりました。実際に釜石市を訪問し、現在の町の様子を見た時には、震災から6年間の復興の努力を感じ、感動しました。地方自治運営に現地住民の協力があつたことを、ホストファミリーや町内会での文化体験プログラムから感じ取ることが出来ました。参加者はみんな学生や若者でしたが、ホストファミリーのみなさんは常に私たちのことを気にかけてくれ、私たちのことを尊重してくれていることが分かりました。

◆ ミャンマー 学生

一番の思い出は何か、と聞かれても一つを選びきれないほど、たくさんの経験をさせてもらいました。空港に着いてまず感動したことは、空港スタッフの規則正しさと礼儀正しさです。彼らはみんな一生懸命働き、とても気さくで親切でした。本や講義で知っていた日本よりももっと素晴らしいものでした。

釜石市での経験から、私は今後挫折することや諦めることはできないと感じました。釜石市の人々は東日本大震災の大津波や、その後の二次災害にも負けず、復興と防災に真剣に取り組んでいました。この人々のことを知った私は、どんな困難な状況に陥っても、最高の人生を作っていける力を得ることが出来ました。釜石市には何百回でもまた来たいと思いました。

5. 受入れ側の感想

ラオス

◆ ホストファミリー

今回が初めてのホームステイ受入れだったため、何を準備すべきか、ラオスの詳しいことも分からず少し不安になりましたが、ウェルカムボードを作成したり、歓迎会のパフォーマンスの準備をしたりすることで少しずつ不安が消えていきました。今回プログラムに参加し一番良かったことは、交流を通し娘の視野が広がり、たくさんの刺激を受けたと話してくれたことです。ラオスの友達ができたことをとても喜んでいます。

◆ 学校交流参加学生

英語もラオス語も話せないのもとても不安でしたが、片言の英語でもコミュニケーションが取れたので嬉しかったです。熊本とラオス、相互の文化交流ができる珍しい機会となりました。異文化や他言語に興味を持つことができました。今後もこのような交流会に積極的に参加していきたいと思いました。

ミャンマー

◆ ホストファミリー

思っていた以上に誠実で、本当に優しい青年たちでした。世界中で羽ばたく人間になって欲しいです。

◆ ホストファミリー

とてもフレンドリーで礼儀正しく、一緒に過ごしてとても楽しかったです。片言でもコミュニケーションも取れて、文化の話などあっという間に時間が過ぎました。この3日間でミャンマーのことが大好きになり、行ってみたい国となりました。

6. 参加者の対外発信



<p>(ラオス) 熊本県のプログラムについての発信 (Facebook) 熊本での一日 熊本県庁防災センター、熊本大学との交流、ホテルでの茶道体験</p>	<p>(ラオス) 東京都のプログラムについての発信 (Facebook) 東京での第一日目</p>
---	--



(ミャンマー) 新幹線についての発信 (Facebook)
 新幹線で岩手県へ行きました。信じられないかもしれないが、この動画は車内からスマートフォンで撮影したものです。三脚など使わなくても全然揺れていないことがわかるでしょう。乗り心地がとても良かったです。

(ミャンマー) 岩手県のプログラムについての発信 (Facebook)
 JENESYS プログラムの一部であるホームステイが終わり、ワークショップをしました。この地域の復興について色々学ぶことが出来ました。ホストファミリーからは地域の産業についても教えてもらいました。ここで得た知識はきっとミャンマーで役立つと思います。今後どのように知識を広め活用するかをみんなで考えます。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

<p>アクション・プランの発表①(ラオス) 熊本県の自然災害への対応をテーマにセミナーを行う。 内容：①被害の状況、②震災時の対応、③災害に対する計画と防止、④他県からの協</p>	<p>アクション・プランの発表②(ミャンマー) 1. 防災についての知識共有 SNS、新聞、雑誌、セミナーを利用し自然災害の脅威や防災対策の重要性について共有する</p>

力と地域連携について	2. ゴミや産業廃棄物の管理 ゴミの分別や産業廃棄物の処理について正しい知識を学校や公共施設に広める
------------	---